

「避難生活全般の課題」

田村 圭子 氏 （新潟大学危機管理室/災害復興科学センター 教授）

【講演要旨】

災害の被害が甚大であると、被災者はそれまでの生活を継続することが困難になる。被災者は避難生活を余儀なくされ、その生活の中には様々な困難が発生する。避難生活とはどのようなものなのか、過去の災害における事例を紹介しながら、避難生活の現実を紹介し、被災後の状況変化における避難生活の位置づけについて明らかにする。

【講師紹介】

田村 圭子（たむら けいこ）氏

[略歴]

2004 年 3 月 京都大学大学院情報学研究科博士後期課程 単位取得
2004 年 4 月 京都大学 防災研究所 研究員
2005 年 3 月 博士(情報学)(京都大学)取得
2006 年 4 月 新潟大学災害復興科学センター 准教授
2009 年 4 月 新潟大学危機管理室/災害復興科学センター兼務 教授

[専門分野]

危機管理, 災害福祉

[所属学会]

地域安全学会, 自然災害学会ほか

[主な著書]

「組織の危機管理入門ーリスクにどう立ち向えばいいのか（京大人気講義シリーズ）」林春男、牧紀男、田村圭子、井ノ口宗成著、丸善、2007. 3
メモリアル・コンファレンス・イン神戸(編著), 「12 歳からの被災者学ー阪神・淡路大震災に学ぶ 78 の知恵」, NHK 出版, 2005. 1 (分担執筆)

[社会的活動（主なもの）]

①国

・内閣府「災害時要援護者の避難支援における福祉と防災との連携に関する検討会」委員

②自治体

・新潟県「防災公園等整備計画検討委員会」委員.
・奈良県「奈良県災害時要援護者支援体制ワーキンググループ」委員
・奈良県「奈良県地震防災対策アクションプログラム」, 「市町村地震防災対策アクションプログラム」, 「奈良県災害時要援護者支援ガイドライン」策定支援
・新潟市「危機管理防災センター（仮称）検討委員会」委員
・小千谷市「復興推進委員会」委員

「口に入れたものはいずれ出る！」

— 災害時の排泄への対策・身体機能からのアプローチ —

吉川 羊子 氏 （小牧市民病院泌尿器科 排尿ケアセンター部長）

【講演要旨】

近年、災害報道などの際に、トイレ整備の重要性がようやく表立って取り上げられるようになった感がある。避難先での衛生面の確保という点からもこのことに関心が向くようになったのは喜ばしいことであるが、まだまだ簡易トイレ何基が必要か？あるいは水周りの確保をどうすべきか？といったハード面に重きが置かれているようである。

もちろんハードの確保は重要だが、まず自身の排泄機能（排泄パターンや、行動様式等）にどのような能力があるのか？解決すべき障害はどうか？というソフトについての議論はほとんどなされていない。人間は一日食わずに過ごすことが可能であっても、全く排泄なしでは生きられない。「災害への備え」の視点から、排泄障害、排泄ケアについて考えてみたい。

【講師紹介】

吉川 羊子（よしかわ ようこ）氏

[略歴]

1987 年 名古屋大学医学部卒

1988 年 名古屋大学医学部泌尿器科入局

刈谷総合病院、碧南市民病院泌尿器科勤務を経て

1999 年 12 月 名古屋大学医学部泌尿器科 助手として帰局

2007 年 11 月 名古屋大学医学部付属病院 講師

2008 年 1 月より現職

[所属学会]

日本泌尿器科学会，日本排尿機能学会，日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会，日本老年泌尿器科学会，日本女性骨盤底医学会，国際禁制学会（ICS）

[専門分野]

排尿障害の診断・治療，排尿管理

[活動]

NPO愛知排泄ケア研究会理事，日本トイレ研究所アドバイザー

「新潟県の災害時における栄養・食生活支援活動の実際」

— 現状と課題、平常時から復旧・復興対策まで —

土田 直美 氏 （新潟県魚沼地域振興局健康福祉部（魚沼保健所）主査／管理栄養士）

【講演要旨】

当県において頻発する自然災害時の適切な栄養・食生活支援は、近年の課題となっている。震災当初からのライフラインの復旧状況や支援物資の入荷状況、もとより個人及び行政機関の備蓄状況により、その支援内容は大きく変わってくる。

特に食生活面で支援が必要な災害時要援護者の把握やそれに相応する適切な食品のリストアップと必要量の確保、利用・活用までのしくみづくりが課題となっている。また、家庭用備蓄食品の充実や地域で活用できる炊き出し献立の整備など、平常時から関係機関及び団体との連携体制により、自助・共助・公助の観点で取り組むことが必要である。

現在被災地域では、復旧・復興対策の中で「食育の推進」という観点からも災害時の栄養・食生活支援活動の充実が図られており、本報告は「新潟県中越沖地震」での対応を中心に活動の実際を述べる。

【講師紹介】

土田 直美（つちだ なおみ）氏

〔学歴〕

1986 年 長野県短期大学家政学科 卒業

2006 年 放送大学教養学部生活と福祉学科 卒業

〔職歴〕

1994 年 新潟県に採用

（三条保健所地域保健課を振り出しに長岡保健所、十日町保健所に勤務）

福祉保健部健康対策課

（2004 年の「新潟県中越大震災」時は本庁において栄養・食生活支援活動を担当）

2005 年 柏崎地域振興局健康福祉部（柏崎保健所）

（2007 年の「新潟県中越沖地震」時は被災地保健所において栄養・食生活支援活動を担当）

2009 年 新潟県魚沼地域振興局健康福祉部（魚沼保健所）

〔所属学会〕

日本公衆衛生学会，日本栄養改善学会

「災害時要援護者の課題 介護福祉ボランティアの活動を通して」

岡田 史 氏 （新潟医療福祉大学 准教授）

【講演要旨】

（社）新潟県介護福祉士会では会則に会員のボランティア活動への支援を掲げている。2004 年 7・13 水害、中越地震、2007 年中越沖地震において、筆者は会の代表として被災地での介護ボランティア活動の指揮をとり、自らも従事した。その活動内容は高齢者の在宅での環境整備、避難所における要援護者に対する介護支援、介護予防を目的としたレクリエーションや見守り、共感的な傾聴等、様々なニーズに対応した活動であった。

日本介護福祉士会の 2008 年度の事業として災害介護対策委員会が設置され、ボランティア活動に参加した会員が委員として参画し「介護福祉支援ボランティア・マニュアル」を作成した。その作成のプロセスにおいて、介護福祉ボランティアは利用者の生活状況を理解し、適切な支援を行う必要があることが明確化された。要援護者の生活状況を理解し、適切な援助につなぐための方法としてこれまで日本介護福祉士会において提唱されてきた「生活 7 領域から見たアセスメント」の考え方が、災害時においても有効であることが委員会でのグループワークの中で明確化された。

今回は、作成されたマニュアルについて紹介すると共に、災害時の介護福祉支援の実際について述べる。

【講師紹介】

岡田 史（おかだ ふみ）氏

〔略歴〕

- 1975 年 日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科卒業
- 1978 年 特別養護老人ホーム松風園就職（介護職員）
- 1979 年 特別養護老人ホーム大山台ホーム就職（介護職員）
- 2005 年 大山台ホーム退職
新潟医療福祉大学（社会福祉学科准教授） 現在に至る
- 2007 年 新潟医療福祉大学社会福祉学修士

〔専門分野〕

社会福祉学，介護福祉学，災害介護

〔所属学会〕

日本介護学会，日本介護福祉学会，日本社会福祉学会，新潟医療福祉学会ほか

〔主な著書〕

- 介護概論．社会福祉学双書編集委員会編．社会福祉法人全国社会福祉協議会．49－60．2009(共著)
- ひとりひとりを大切にするレクリエーション．月刊レクリエーション．財団法人日本レクリエーション協会．4月号－10月号．2008(共著)
- 介護福祉のための訪問介護．新潟介護教育研究会編．医歯薬出版．2000（共著）

「災害食とは：中越と中越沖地震の体験を通して明らかになったこと」

別府 茂 氏 （ホリカフーズ株式会社 取締役／防災士／新潟大学 客員教授）

【講演要旨】

賞味期間の長い非常食の備蓄があれば対応できると考えていたが、被災生活を支える食には被災者のニーズに対してきめ細かな配慮が大切であることが分かった。災害時に役立つ食問題の解決には、自助が不可欠であり、備蓄のあり方、フェイズ変化と長期化への対応、食品の役立ち度の向上、代替熱源の工夫のほかに、防災意識の向上を含めた幅広い検討が大切となっている。

災害食の目的は、①被災者の健康面の二次災害防止、②初期の救援・復旧の支援と位置付けることができる。また、現代生活は日頃から便利で快適な食生活を実現したが、災害発生というリスクへの危機管理という観点が必要であることが明らかになった。

【講師紹介】

別府 茂（べっぶ しげる）氏

〔略歴〕

- 1977 年 新潟大学農学部卒業
堀之内缶詰（株）（ホリカフーズ（株）前身）技術課 入社
企業内研究職として介護食、非常食の研究開発に従事
- 2001 年 レスキューフーズ企画開発に従事
- 2004 年 新潟県中越地震で被災
- 2008 年 新潟大学大学院医歯学総合研究科 博士（歯学）取得
- 2009 年 新潟大学大学院自然科学研究科 非常勤講師（食品加工技術論担当）
取締役営業企画部長として現在に至る

〔社会活動〕

日本防災士会常任幹事、日本防災士会新潟県支部長

〔所属学会〕

日本災害看護学会、日本咀嚼学会、日本摂食・嚥下リハビリテーション学会ほか

〔主な著書〕

- これからの非常食・災害食に求められるもの 光琳 （共著）
- これからの非常食・災害食に求められるもの2 光琳 （共著）

「来るべき災害に向けて」

芳永 和之 氏 （総務省消防庁国民保護・防災部防災課 震災対策専門官）

【講演要旨】

頻発する地震や集中豪雨など日本における災害の発生状況と想定される大規模地震の長期予測、新潟県中越地震などで活躍した緊急消防援助隊の活動などを例に消防庁における災害対応体制を報告するとともに、国における食糧などの緊急物資等の備蓄・調達体制の基本的な考え方について紹介する。

【講師紹介】

芳永 和之（よしなが かずゆき）氏

〔学歴〕

1986 年 同志社大学経済学部卒業

1997 年 米国ワシントン州立エバークリーン大学大学院（行政管理学）卒業

〔職歴〕

1989 年 兵庫県入庁

2002 年 アジア防災センター

2005 年 兵庫県防災企画課

2008 年 総務省消防庁（現職）